

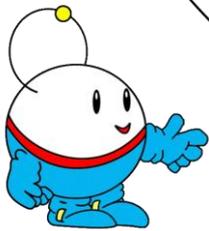
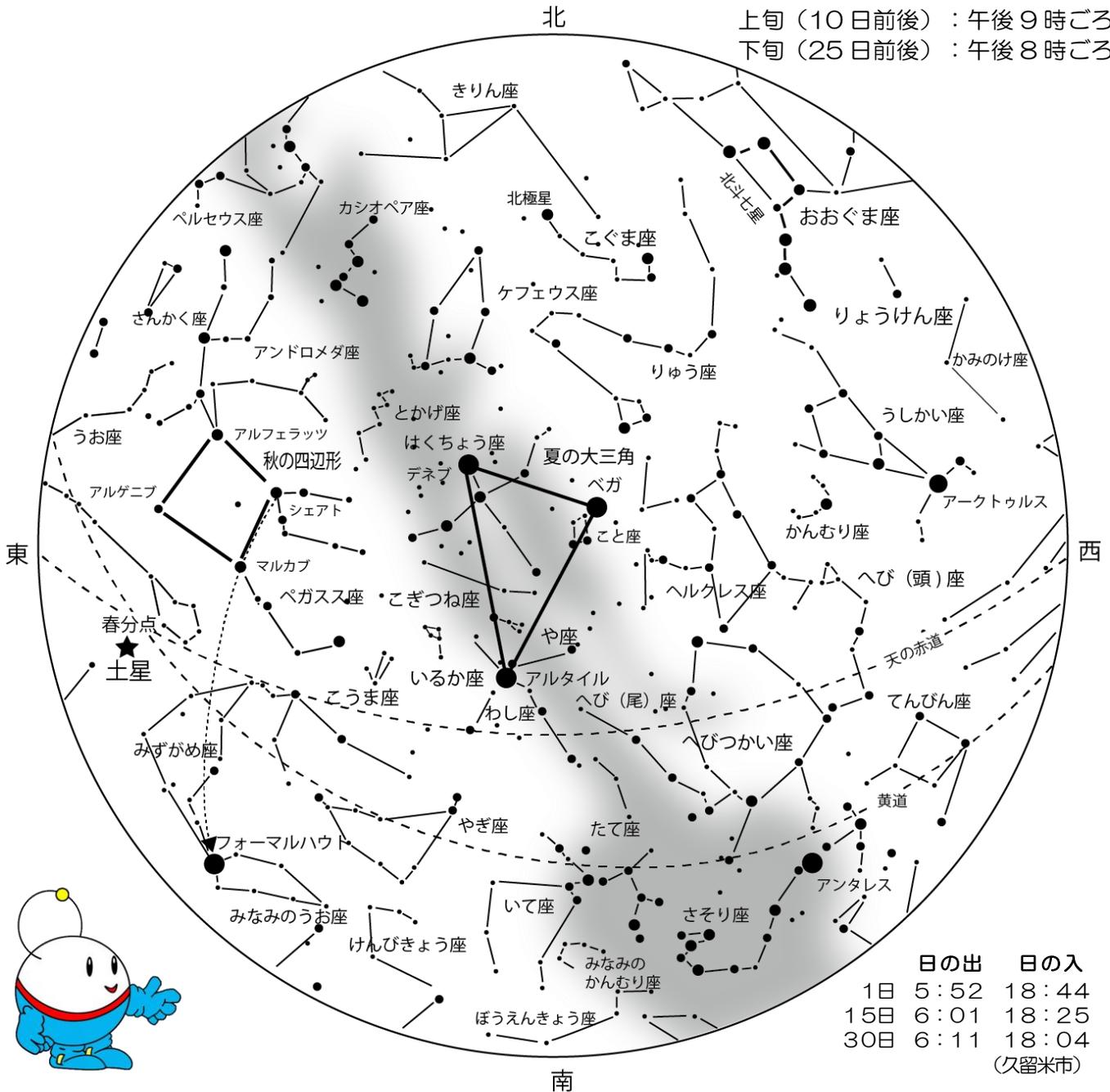
令和7年

9月の星空さんぽ

福岡県青少年科学館
TEL0942(37)5566



上旬（10日前後）：午後9時ごろ
下旬（25日前後）：午後8時ごろ



9月に入り、木々のこすえをわたる風にも涼気を覚え夏の終わりを感じられるようになってきました。夜空にはまだまだ夏の星座たちが見えています。上図の時間帯では、頭の真上あたりで明るく輝く3つの1等星を結んでできる『夏の大三角』を目印に、夏の星座を探してみましょう。夏の大三角をつくる星のうち、最も明るい星はこと座のベガです。こと座はベガとすぐそばにある4つの星でつくる小さな四角形の星の並びが目印です。ベガから南の方へ少し下ると、わし座のアルタイルを見つけることができます。わし座はアルタイルと両脇にある2つの星の並びが目印です。また、ベガから東の方へ目線を移すとはくちょう座のデネブを見つけることができます。はくちょう座はデネブから十字に並んだ星の並びが目印です。

東の空を見ると秋の星座が見え始めています。秋の星座探しの案内役となるのは『秋の四辺形』と呼ばれる四角形の星の並びです。秋の四辺形はペガサス座の一部です。秋の四辺形を形づくる2つの星、シェアトとマルカブをつないだ線を地平線の方へのばしていくとみなみのうお座の1等星フォーマルハウトを見つけることができます。また、9月下旬は土星が一晩中見やすい時期です。今年の土星は、普段の年よりも環が細く見え、望遠鏡で観察するチャンスです。

9月の夜空では、夏と秋の星座探しを楽しみながら、土星も探してみたいかがでしょうか。

《9月の天文カレンダー》

日	曜日	天文現象	日	曜日	天文現象
8	月	○ 満月 (03:09)	22	月	● 新月 (04:54)
		皆既月食 (未明～明け方)	23	火	秋分の日/秋分 (太陽黄経 180度)
14	日	◐ 下弦 (19:33)	30	火	◑ 上弦 (08:54)

【惑星の見え方】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

水星 (1.1等前後)	: しし座→おとめ座	観望に適さない。
☆金星 (-3.9等前後)	: かに座→しし座	日の出前の東の低空で輝く。
火星 (0.6等前後)	: おとめ座付近	観望に適さない。
☆木星 (-2.4等前後)	: ふたご座付近	日の出前、東の空で輝く。
☆土星 (0.6等前後)	: うお座→みずがめ座	日の入り後、東の空の低いところに現れ、真夜中に南の空高いところで輝く。

注目の天文現象 (9月) ～皆既月食や月と木星、金星の接近を観察しよう～

9月8日未明に2025年2度目の皆既月食

今年2回目の皆既月食が9月8日の未明から明け方に起こります。日本国内で比較的条件の良い月食が見られるのは2022年11月8日以来、3年ぶりです。月食の進行は全国同時で1時27分に部分食が始まり、月が欠け始めます。月が地球の影に完全に入ってしまう皆既食は2時31分から3時53分で、4時56分に部分食が終わります。

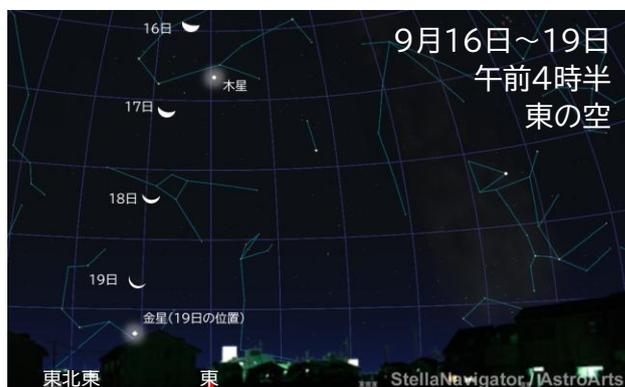
まぶしく明るい満月が徐々に地球の影に入って輝きを失っていく様子。皆既中に赤銅色となって夜空に浮かぶ神秘的な月を観察してみたいはいかがでしょうか。



月が木星、金星に接近!

9月16日の20時頃に月と約4度まで近づいた木星が17日深夜0時過ぎに東の空から昇ってきます。22日の新月に向けて細くなっていく月と木星が仲良く並んで見えます。

また、9月19日は夜明け前の東の空低く、金星と細い月が近づきます。19日の久留米の月の出は3時14分。金星は月と5度ほど離れて昇ってきます。東の方角が見晴らしの良い場所で観察してみましょう。



《天文イベントのご案内》

☆市民天体観望会 9月27日(土) 19:30～20:30

要予約

「夏の大三角と夏の二重星を楽しもう」



- 対象: 制限なし(ただし中学生以下は保護者同伴)
 - 定員: 100名
 - 参加費: 無料
 - 予約: 9月13日(土) 9:30から、オンラインにて予約受付開始
- プラネタリウムで星空解説の後、望遠鏡を使って天体の観察を行います。



ご予約用QRコード

最新の情報は、ホームページまたはお電話にてご確認ください。